



世界へのプレゼントになろう

RI 会長テーマ

2015~2016 年度

大船渡西ロータリークラブ会報

# 七福人

会 長 松岡 克之

副会長 水野 賢一

幹 事 新沼 敏宏



会長テーマ

誇りをもって 行動を

## ．．． 例 会 記 録 ．．．

1月第4週例会 2016年1月28日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 37,000 山口ひとみ会員)

お客様紹介 : 大船渡青年会議所 理事長 川原夕輝様 専務理事 鳥井絹氏様

ひとづくり委員会委員長 及川慶晃様

本日出席率 : 60.00% 前回修正後56.36% (メキップ3名) (報告者 紀室 綾子会員)

### ★ 大船渡青年会議所 新役員各位 の表敬訪問



川原理事長 : 「未来への挑戦」というスローガンのもと子ども達が大船渡に夢と希望を持てるように少数精鋭で頑張ります。

鳥井専務理事 : 会議所メンバーの育成に力を入れる。

及川ひとづくり委員会委員長 : 会員10名の拡大に頑張るなどのご挨拶を頂きました。

主な事業 : 青少年育成事業 子どもが海に触れる事業 夏祭りには グルメフェスティバルとストリートバスケット10周年を盛大に行う

### ★ 会長の時間 松岡克之会長



皆様今日は。

今日は大船渡青年会議所から川原夕輝理事長を始め3名の役員の方々がお出でになっております。これまでも、そして今後も大船渡市発展に貢献していく団体です。

今年の抱負を皆さんに話して頂きました。青年会議所は40才で卒業しますが、その後RCやライオンズ等に入会し活躍している方々が大勢いらっしゃいます。西RCにも青年会議所出身の方々が沢山います。卒業後は西RCに入会して頂けるよう皆さんからも声かけをして勧誘を宜しくお願いします。

本日は14日に国際協議会出席の為、壮行会を行った濱守ガバナーエレクトが無事に帰ってきています。ご苦勞様でした。濱守ガバナーエレクトより会員の皆さんにお土産を頂いております。アメリカサンディエゴでの国際大会参加のお土産話を聞きたいと思しますので簡単ですが会長の時間を終わります。



## ◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 RI 日本事務局よりより 2月のロータリーレート 120円との連絡がありました。
- 2 暴力団追放大船渡市民会議より 第25回大船渡市暴力追放市民大会へ参加依頼が届いています。  
日 時 2月18日(木) 午後1時30分～  
場 所 リアスホール マルチスペース 締切り 2月8日
- 3 2014-15年度ガバナー事務所より 年次報告書が届いています。
- 4 茨城県第2820地区東海那珂RCより 卓話のお願いが届いています。  
3月11日に行う地区社会奉仕委員会の「3.11を風化させないために」という趣旨のもと計画



サンディエゴ出発前は壮行会、また多額のお餞別まで頂き誠にありがとうございました。おかげさまで元気で帰ってきましたのでご報告いたします。

まず、2016-17年度国際ロータリー会長「ジョンFジャーム氏」の掲げるテーマは

## 「人類に奉仕するロータリー」です。

そして次に、RI会長のメッセージを紹介します。

111年の歴史の中で、ロータリーは多くの人に多くの意味を持ってきました。会員は、ロータリーを通じて友人と出会い、地域社会とつながり、目的意識を持ち、人々との絆を育み、キャリアを築き、ほかでは味わえない貴重な経験をしてきました。毎週、世界 34,000 以上のクラブのロータリアンが、語らい、笑い、アイデアを分かち合うために集います。しかし、私たちが集う一番の理由は、最も大切な目標、すなわち「奉仕」のためです。

ロータリーの初期から、人類への奉仕はロータリーの礎であり、主な存在理由となってきました。今日の世界で意義ある奉仕を行う最善の道はロータリー会員になることであると、私は信じています。

また、世界に確かな変化をもたらすために、ロータリーほど優位な立場にある団体はないと考えています。さまざまな分野から熱心で有能な職業人が集まり、壮大な目標を実現できる団体も、ほかにありません。ロータリーには、世界を変える力、ネットワーク、知識の結集があります。ロータリーに限界があるとしたら、それは私たちが自分自身に設けている限界にすぎません。

現在、ロータリーはとても大事なときを迎えています。今はいろいろな意味で今後を決定づける歴史的な節目です。私たちは力を合わせ、世界に重要な奉仕を行ってきました。そして、今、世界の行く末は、私たちのさらなる奉仕にかかっています。世界でもっと大きな「よいこと」の推進力となるために固い決意と熱意でポリオ撲滅を成し遂げ、勢いをつけてロータリーをさらに前進させながら、これまでの成功をバネに飛躍するときが来たのです。ポリオ撲滅から私たちが学んだ多くのことの中で、最も大切ながら最もシンプルなこと、それは、ロータリー全体の発展を望むなら全員が同じ方向に進まなければならないということです。クラブ、地区、RIのレベルにおけるリーダーシップの継続は、ロータリーを繁栄させ、その秘めたる可能性を最大限に発揮する唯一の方法です。新会員の入会や新クラブの結成だけでは十分ではありません。私たちが目指すのは、単にロータリアンの数を増やすことではなく、ロータリーのリーダーとなれるロータリアンを増やすことです。

ポール・ハリスは晩年、ロータリー設立の経緯について振り返り、次のようにつぶっています。「個人の努力は個々のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結集は、人類の奉仕に捧げなければなりません。結集された努力に限界というものはありません。」いつの日か120万人以上のロータリアンが一体となり、ロータリー財団や各自のリソースを駆使して人類への奉仕に取り組むことになるとは、ハリスも想像しなかったでしょう。そのようなロータリーに対してハリスがどんな奉仕を期待するのか、私たちは想像するしかありません。

「人類に奉仕するロータリー」の伝統を継承する名誉を授けられた私たちには、このような奉仕を行っていく責務があるのです。心を込めて

次に6日間の研修中1月20日に行われたワークショップ:ロータリーモーメント(心に残るロータリーの体験)について。

これは17名が一つのグループになり、自分自身のロータリーモーメントの発表をするプログラムです。ここで私が発表した私のロータリーモーメントをお話致します。

私が大船渡西RCに入会して3年目、インターアクトクラブの小委員長に会長より任命された。その目的は現在インターアクトクラブの会員数が、以前は25名だったのが8名になり、3月の卒業式を迎えれば3名になってしまうので、なんとかインターアクト崩壊の危機を救ってほしいとの話でした。

私はまず、青少年奉仕委員長と二人で学校を訪問し、校長と毎週水曜日に校長室で談話するようにしました。訪問を始めて4.5回目、校長先生は「私はロータリーが嫌いです」とおっしゃいました。そこで25名が8名になった理由がわかったような気がしたので、それから私は「私の責務はロータリーの嫌いな校長先生をロータリーを好きにさせることだ」と決めた。

月日が過ぎ3月、2年生二人をアメリカのオクラホマとテキサスに青少年交換交流短期事業「ロータリーの翼」で派遣することに成功する。アメリカへ行った二人の生徒は素晴らしく成長して帰って来て、4月の入学式後さっそくクラブ会員の勧誘に努め、3名まで減った会員を25名まで増やしてくれたのです。このことにより、私は4月にクラブ会長賞、5月の地区大会でガバナー賞を受賞しました。

そして、ある日の校長室で校長先生は「私は濱守さん、あなたには負けました」と苦笑し私に頭を下げてくれたのです。

その後「ロータリーは嫌いだ」と言った校長はロータリーの例会に出席し、講和をするまでにロータリーを好き?になってくれました。



毎月最後の例会は『レディースディ』で  
「レストラン海さん」が女性向けのメニューで食事を提供して下さいます。